

第3回 富士市教育振興基本計画策定委員会 議事概要

日時 令和3年1月28日（木） 午後6時30分～午後8時30分

場所 富士市庁舎 10階全員協議会室

出席者

[策定委員]

武井 敦史 那珂 元 中山 早由里 田辺 敬子 佐野 弘美
 渡井 裕將 来住 紗依 杉澤 陵太 田中 尚志 檜木 小重美
 大石 久美子

会議の概要

議 事

(1) 教育振興基本計画の体系イメージについて

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

委員長	今、体系イメージをご説明いただきました。前回の策定委員会の後、委員の皆様から個別に意見を頂き、それを踏まえた修正案を事務局より頂きました。これについて、ご意見をいただければと思います。
A委員	二文字の象徴する言葉で表現されていて、良かったなと思います。やはり分かり易い表現があるとありがたいです。どうしても、前回の基本計画と比べてしまうが、後期計画の7ページを見ると、5つの全ての前に「富士山のように」と入っていて、逆に、今回の基本計画には「明日に向かって」という言葉が入っているので、その辺がクローズアップされてくるのかなと思います。「明日に向かって」という言葉は市民憲章の中にも入っているので、そこから引っぱっているのかとは思いましたが、やはりここに注目すると、未来志向というところも、その上の基本目標にも「明日を拓く…」とあるので、そことリンクしてくると考えていいのかなと思いますが、その辺はそういうことでいいのでしょうか。

委員長	これは事務局にコメントもらった方がいいですかね。事務局、その点についていかがですか。
事務局	A委員がおっしゃったように、市民憲章の前文から引用いたしまして、「明日に向かって」という言葉を、目指す「ふじの人」の先頭として今回入れさせていただきました。基本目標の「明日を拓く…」、その上にある六次総の「…未来を拓く…」というところから受け継いでくる文言として、この中に入れさせていただいております。
委員長	<p>教育というのは未来志向でやるわけですから、ここにあってもいいでしょう。二文字で全部表現されているということで、覚えやすいし、難しい表現ではないですね。前回と比べて「教養」が「学び」になり、「規律」が「平和」になりましたけれども、これも柔らかくなり、私はいいのではないかなと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>1点、あえて言うのですが、4番目の「仕事に励み 健やかな生活を送る人」で「健康」となっていますが、それ以外の所は全て二文字の言葉が文中に入っているんですね。ここだけ入っていないというのは何か意図的なことがあるのでしょうか。つまり、これを出した時に、「この5つですよ」と言えればいいですが、別にそういう使い方をしないのであればこだわることはないのですが。</p>
事務局	健康という言葉の響きからいうと、身体を健康をイメージしやすいかと考えまして、ここでは身体だけではなくて精神的なものも含めた健康という意味で、あえてここを身体以外も含めた意味で「健やかな」という表現を意図的にしてあります。キーワードが4番目だけ入っていないので、入れた方がよろしいのであればここを変えることはできると思います。
委員長	<p>こだわりは私にはありませんが。それでは「健やか」がいいか「健康」がいいのか、二択で挙手をしていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>「健やか」がいい人は。(過半数の手が上がる)</p> <p>はい、それでは「健やか」でいきましょう。では、これでここまではこのような形でよろしいでしょうか。</p> <p>次に、施策の体系について入ってよろしいでしょうか。それでは事務局の方から説明をお願いします。</p>

(2) 施策の体系について（施策の方針1）

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

委員長	事務局の方から全体像と施策の方針1についての説明がありました。どこからでもよろしいので、それぞれの立場からのご意見を頂きたいと考えております。表現であるとか区分けについては柔軟に対応できるかと思えます。文面や分け方についてご意見いただけたらと思えます。
A委員	確認ですけれども、A3の方の現行の施策の柱が、これから策定する施策の方針ですよね。現行の施策のところこれから策定する施策の柱、現行の重点的な取組のところこれから策定する施策、と考えていいですね。例えば、現行の重点的な取組のところ「教育委員会の運営」とありますが、具体的な取組よりは、こちらの施策にあるように「学びの連続性を意識した教育の推進」といった大きな枠で書かれていた方がよろしいのではないかと感じました。
委員長	これで良いということですよ。私もそう思います。こういう書き方が、どちらを向いているかわかりますよね。 「Society5.0」という言葉は、私たちは仕事で使うから理解できますが、大体分かるものですかね。委員さんの中で「Society5.0」という言葉を聞いたことある方はどのくらいいらっしゃいますか。 一応こういうものだと説明できる方はどのくらいいらっしゃいますか。「何となく聞いたことがあるな」というくらいでしょうかね。
B委員	振興計画ですと、脚注みたいに下に載せたりするケースがありますが。「Society5.0」は私も仕事で関わりはありますが、いきなりだと分かりにくいと思われませんが、いかがでしょうか。
委員長	どうですかね、もちろん注釈を付けることはできると思いますが、あえてこういう注釈を付けなければいけない言葉を使った方がいいのか、どうなのか。これも微妙なところで、では何て言ったらいいのか。「超スマート社会」もっと分からないですよ。だから、広く使われてきてはいるので、徐々に浸透するとみておいて、このまま使っていくか、変えていくか、どうでしょうか。

副委員長	<p>まあ、「Society5.0」という言葉がイメージしにくいというのであれば、「超スマート社会」といった言葉でもいいのかなと思います。ここは未来志向のところなので、あまり古臭い言葉で、例えば「情報化社会」とかよりは、トレンドを意識した言葉の方がいいのかなと思います。また、④番の一番下の方ですけれども、「持続可能な社会」というところも、言ってみれば「SDGs」という風に置き換えればいいわけですが、①が「Society5.0」であるならば、逆に、④は「SDGs」と書いてもいいのかなと思います。逆に④が「持続可能な社会」であるならば、①のところは別に英語表記ではなくてもいいのかなと。言葉もトレンドがあるので、何年後か先にこの言葉が死語になってしまえば元も子もないというか、逆に分かりづらくなってしまいますので、私はもう少し分かり易い言葉の方がいいと思うのですが。それが一体何なのかは出てこないのですが。</p>
委員長	<p>いかがでしょうか。事務局の方は何か思い入れとかありますか。</p>
事務局	<p>本市は現在、六次総に向けてデジタル変革宣言をしました。また、SDGs 未来都市の方も進んでいます。その関係で「Society5.0」の言葉もそうですし、「SDGs 未来都市」というのも、キーワード的には非常に重要なものと考えています、今後5年は少なくとも。考え方や理念は必ず進めていかなければならないと思っています。ただ、ご指摘にあったように、皆さんがどれだけこの言葉でイメージしていただけるかと、載せる載せないがリンクしてくると思うので、分かり易さを取った方がいいのか、トレンドの言葉を入れてインパクトを付けるのも必要だと思いますので。①も④も理念的なものは必要ですが、言葉が廃れてしまうかどうかの読みは、正直難しいなと思っています。</p> <p>載せていきたい意図は、そういった市の方向的なものがあるので、2つともどのような形でも表現はしていきたいと思いますが、分かり易さの方がいいか、それともトレンドのものの方がいいか、今この場では答えが出ていません。</p>
委員長	<p>どうですかね、悩ましいところですね。代わる良い言葉があれば私はいいと思います。「Society5.0」というのは、情報化というのがその中心にあるのですが、それ以外にドローン技術やロボティクスだとか、そういうようなところが入ってきます。情報化を普通にイメージするのと若干違うというのがあるので、今知らない人もあと1、2年すればわかるということで、私はあっていいのかなと思いますが、皆さんはどうですかね。</p>

C委員	<p>それを言い出すと、他にもいっぱい出てくると思います。コミュニティ・スクールというのも一般的ではないし、キャリアステージとかユニバーサル社会とか、様々なところで難しい言葉が出てきているので、「Society5.0」も私はそのままでいいのではないかと思います。</p>
委員長	<p>じゃあ、とりあえずこれはこれでということにしましょうか。</p> <p>④番の「持続可能な社会」の方はどうですか。これも最近使われますよね。SDGs を上との整合性の関係で入れるのは形式論としては全く問題ないと思うのですが、ただ違いは、SDGs だと具体的な目標が20くらいありますよね。そうすると、案外細かいことがいっぱいあって、他にも含まれることがたくさん出てくるという可能性が強いので、下には書いておいても「持続可能な社会」という言葉を使えば「人口が減ってきても活気を創出するためにはどうしたらいいのか」とか「自然環境がきちんと保全されるためにはどうしたらいいのか」とか「津波の対策はどうか」とか、大体イメージするのはそんなところですよ。だから、副委員長が言われたようなこともあります。このままでいいのかなと私は思うのですが、どうですか。</p>
C委員	<p>1番の④の「学校教育や社会教育を通して SDGs の理念に沿った質の高い教育を推進します」とありますが、どんなことかなと、大きすぎて概要と言われても難しい。もう少し分かり易くなるのだったら、なった方がいいかなと思います。</p> <p>別のところで、①番の2行目に「児童生徒が授業において ICT 機器を活用し」、4行目にも「効果的に授業で活用できるよう」と書いてあって、何となく授業の中で ICT を使うというのがメインなのかなというのが見えてきているのですが、家庭で活用するとか不登校の生徒のタブレット活用はここでは触れないのか、どこで触れているのか分からないので、GIGA スクール構想というのが①だとすると、タブレットの色々な活用についても、もう少し、授業だけではなくて、②番目でも使えるところがあるだろうし、その辺りは概要に入らないのかなという質問です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。非常に鋭い質問で、私はいい質問だと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>①番の方は、書きぶりが「授業で使う」というふうに出てきてしまっているけれども、本来はそうではないですよ。教員だけこれをやればいいのかという訳ではなくて、様々なところでこれが活用されていくし、場合によっては</p>

	<p>学校の枠を越えてこういったものが教育の手段になっていくのがこれからの社会だと思うので、そこは書きぶりを変えていただく、具体は次回検討できるので、ここで今考えるよりその方がいいでしょう。</p> <p>それから ICT 機器に関しては、依存性がそこにあつて、非常に脳に悪いということが盛んに言われるようになってきています。そうしたところについても少し言及した方がいいのではないのでしょうか。いい事ばかりではないので。また、④番目の SDGs の理念というのは私も説明しろと言われてもちょっとできないです。ただ、SDGs 未来都市と言ってしまったからには、言わなければならないと、そういうことですかね。</p>
事務局	<p>SDGs に関しては、持続可能な開発目標ということで、平成 27 年に国連で採択され、アジェンダという言い方をしていますが、国際目標になっております。本市に関しては、SDGs 未来都市ということで、昨年選定されて、今現在、目標に向かって進んでいます。ですので、教育の中でも色々な形で検討していく必要があると思いますので、今回載せさせていただいております。概要部分の概念が大きすぎるということも、重々承知はしているので、今後その部分、概要の部分はあくまでも概要であるので、少し身近になるような表現に変えていければいいかと思っております。</p>
委員長	<p>そういうことであれば、いいかと思えます。このように書いてあれば、何だろうという思考が働くかもしれないので、確かにこれを広すぎるといって、分析的に SDGs と SDGs でないものは何だと言われると迷宮入りすることになりますが、ただこれは施策のくくりで、その下に入ってくるのが実際の取組なので、そういう意味ではあまり細かなことを言わなくてもと思うのですがどうですか。</p>
D委員	<p>幼児教育でも、今 SDGs に注目しています。子どもに SDGs と言ってもわからないので、「自分が社会の一員だよ」、要は「役割があるんだよ」、幼稚園で言うと当番活動とか、そういったところから分かり易く入って行って、それが小学校の教育につながっていくというように考えています。</p> <p>確かに、SDGs というと 17 の目標達成項目があつて、すごく難しいのですが、その一つ一つが何につながるかというよりも、今自分がやっていることが 17 の項目のどこにつながっているのか価値付けていくというように幼児教育では捉えていますので、確かにすごく大きくて説明が難しいかと思えますが、ここはそのままでいいのではないかと思います。</p>

委員長	<p>そのところは大体そのような感じで。1番の概要の文面は後で修正していただくということでいいでしょうか。</p> <p>1-2の方はどうでしょうか。これはもう定番と言えば定番的であると思うのですが。例えば、長寿命化というのは「安全・安心な学校設備」でもありますよね。その二つの区分けについては、私にはちょっと分かりづらいのですが、その辺について何か考えていますか。</p>
事務局	<p>長寿命化に関しては、「安全・安心な学校設備」と被る部分があります。ただ、この長寿命化計画に関しては、今後の減築とか改築とかという意味も含まれているので、少し施設の維持管理的な意味合いの①番とはちょっと離れた感じで、環境の維持整備という形でおきました。</p>

(2) 施策の体系について（施策の方針2）

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

委員長	<p>この部分は学校教育ですから、教育委員会の業務の中でも一番中心的な業務になると思います。いかがでしょうか。</p>
C委員	<p>まず、2-1の③の特別支援教育の充実と、④の誰一人取り残さないための支援の充実というところですが、2-1の豊かな心の育成というところに③と④があるのが私には違和感があって、特別支援教育の充実の中身が、その生徒に対する適切な指導や支援だし、④の方も外国人児童生徒に対する支援なので、その支援というのは、心の育成というのではなくて、しっかりと学力を付けるとか、力を付けるとかという方向の支援だと思うので、何となく自分は2-1の豊かな心の育成というところにあるのに違和感があります。周りの子に対する影響だったら豊かな心の育成に関係あると思うのですが、その③と④の位置をまた考えていただけたらと思います。</p> <p>もう一つ、①番の施策の「個性を尊重する人間関係づくり」というところが、隣の概要の内容と少し一致するのかなと感じていて、もし代表で言葉をこちらに持ってくるなら、「一人一人に居場所がある学級づくり」ならまだわかりますが、その前の「個性を尊重する人間関係づくり」というのがピンとこないというか、生徒指導上の課題の構築なので、①番の施策の言葉が一番適切かどうかのかなと思いました。</p>

委員長	<p>それでは前の方から行きましょう。特別支援と誰一人取り残さないための支援の充実、この2つが心の問題とされるべきことなのかどうかという点です。前はどうか。この部分はいかがでしょうか。これを学力というのも私もおかしいと思います。そうすると施策の柱を立てるということになりますかね。そういう可能性もありますね。柱を立てる不便とかはありますか。</p>
事務局	<p>新しく柱を立てるということに関しては、下の事業が無くなるわけではありませんので、しっかりとした理由があれば特段問題はないかと思いますが、ただ言葉として適切な言葉が見つかるかどうかというところはあると思います。</p>
委員長	<p>「誰一人取り残さない」という表現を最近よく使うようになって、私は個人的には必ずしもあまり良いと思わないというのは、アメリカにNCLB法があって、その和訳として「誰一人取り残さない」といって、ブッシュ政権時代に生徒の点数を測って、全ての生徒の点数がここまでするようになり、それがいかないと学校に罰金を科すという法律で、非常に評判が悪かった。それが誰一人取り残さないとよばれた事元の多分原理だと考えると、だから悪いんだという話には連想しないのですが、ただ、何となく「誰一人取り残さない」ということが社会的弱者に配慮したということの代名詞になっているのかな、どうなんですかね。</p>
副委員長	<p>「誰一人取り残さないための」という背景について詳しくないのですが、多分アメリカの教育法の中で落ちこぼれ防止の関係でそういった表現が出てきて、ブッシュの後のオバマ政権でもいわゆる教育的弱者と言われる人たちが法の中に出てきているわけですが、あえて最近使われている言葉に置き換えると、④については多文化共生という言葉に該当するかなと、③についてはおそらくインクルーシブ教育システムという言葉も出てきていますが、③と④の大きい括りでいうと、教育を受ける基本的な権利というのが憲法上もあって、それをちゃんと保障しましょうと、そこに教育を受けられない、経済的な理由だとか、日本語を母語としないという理由だとか、障がいの有無で、そこを排除してはならないという流れの中で、教育を受ける基本的な権利として、インクルーシブ教育だとか、外国人に対する教育というのが議論されていると思いますので、そういった柱というのを立てるとしたら、そういった名称の柱が必要かなと思っています。</p>

委員長	<p>教育の権利保障に関わる場所ですから、「教育に関わる保障基盤の拡充」というような項目のようなものを立てて、特別支援の教育ですとか、外国人、LGBT の問題、不登校の問題であるとか、そうしたことがトータルで考えられていくということが割といいと思うのですが、そのために包括的に「誰一人取り残さないための支援」という言葉を使っておいて、その中身としてもう少し拡充して書いておくという形ではいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>新たに柱の一つ立てるとするのは、次回に向けて少しお時間を頂くということになりますが、いったん事務局の方で検討した後、各委員さんの方に変更案をお示しする形になるかもしれませんが、そこは検討させてください。ただ1点だけご説明させていただきたいのは、「誰一人取り残さない」という概念というのが、SDGs の理念としてアジェンダ等にも記載されていて、この理念の基本的なところに「誰一人取り残さない」という言葉が使われております。特別支援教育等も大きく考えるとその部分に入ってくるのですけれども、④に関しては、あえて誰一人取り残さないという部分を出しているというところをご承知いただければと思います。</p>
委員長	<p>それ以外のところでお気づきの点はありますか。どうですか。</p>
A委員	<p>2-1の①の「学級づくりを推進します」の、学級づくりという言葉に引っかかりました。子どもの思いに寄り添い、それぞれの個性が尊重されと書いてあるから、左側の施策が「個性を尊重する人間関係づくり」となっている感じがしますが、ちょっとそこは違和感があります。その後「一人一人に居場所がある学級づくりを推進します」。一人一人に居場所を作ってあげるのは学級だけじゃなくて、その下を見ても色々な力を借りながらチームとして取り組んでいくというのを考えると、何となく学級が立ち上がり、担任が一人で頑張らなきゃいけないという印象を受けないかなと、今の学校はそうではないですよという思いが私にはあって、みんなで関わっていきますよ、みんなで居場所を確保しますよ、という思いを考えるとちょっとこの学級づくりという言葉が引っかかります。では「学校づくり」でいいのかというと、それもちょっと違うような気がして、何か適切な言葉を当てはめた方がいいのかなと感じました。</p>
副委員長	<p>この「学級づくり」という言葉に変わる表現として、教育プログラムという言葉が適切かどうか分からないのですが、居場所づくりも含めて教育プログラムを拡充するとか、そういったものが色々な学校だとか、学校以外の社</p>

	<p>会教育施設の計画の中に出てきたりします。プログラムという言葉がこの場合適切ではないのかなと思っています。そうすると、プログラムですから、いろんなチームを組んで、色々なところと協働でプログラムを運営していくという意味にもなると思うのですが、いかがですか。</p>
委員長	<p>私がちょっと考えたのは、プログラムというよりも教育環境というのは、もっと言えば、「居場所がある環境を整備します」ぐらいの表現の方がいいのかなと思います。例えば、不登校の子どもが通うフリースクールなんかは、プログラムを用意する段階というよりは、まずここに居ていいんだよという状況を作っていくところから始めますよね。そうすると、果たしてそれがどうなのかと。あとはコロナ禍で、通常学級での学習が困難な子どもも、案外オンラインでよく学べると言われていて、そうしたものがこの期間には入ってくる可能性がありますよね。基本はもちろん普通の学校なのですけれども、そうなるこの表現は確かに学級では狭すぎる、環境整備又はプログラム、その辺は事務局の方で考えていただいて、次回案をいただくでよろしいでしょうか。</p> <p>それでは時間も迫って参りましたので、施策の方針3の方に移っていきたいと思います。それでは事務局の方から説明をお願いします。</p>

(2) 施策の体系について（施策の方針3）

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

委員長	<p>いかがでしょうか。特に生涯学習関係ですね。どのようなところからでもかまいません。</p>
E委員	<p>とくに生涯学習の内容が出てきましたので、生涯学習の組織も令和4年度から変わりますので、生涯学習の価値として考えていかなければならないですが、全く問題ありません。全体を通して思ったのは、教育とは、子どもたちの教育は当たり前のことで、学校へ行っても非常に子どもたちは明るく元気で楽しくやっていて、うれしく思います。地域と学校が関わらないといけないということで、私もコミュニティ・スクールのいろいろな話し合いに入っています。一つ、今日も出ていないですが、家庭がないのです。お父さんお母さんが、子どもとどのように関わっているか、どんな話をしているか。</p>

	<p>地域と学校は非常に関わっています、昔から。子どもたちは家で育っています。家庭教育について、どのように策定委員会で盛り込むのか、気になっているところです。学校任せみたいところもあり、役員のなり手がなく、こういう状況下で子どもたちを守る、学校を守ることを、親がどのように考えていくか、家庭教育について筋を出していった方が良いかと思っています。</p>
事務局	<p>3-1②のところに、地域ぐるみの社会教育の推進があり、子どもの発達段階に応じた家庭教育支援を推進するとともに、地域・家庭と学校との連携・協働を強化し、地域全体で子どもを育む環境づくりを目指して、地域学校協働活動を推進しますと示しています。次の5年、10年の社会教育の目標としてこういう言葉を載せています。現在、地域学校協働活動は、社会教育委員会議でも検討していただいていると伺っています。乳幼児の支援という社会教育的意味ではなく、家庭教育、特に保護者の方への支援を進めていかなければならないという課題が上がっていて、検討していると社会教育課から伺っています。今後、具体的計画の中で進めていくと思っています。この部分が、家庭教育を読み取る部分としていきたいと考えています。</p>
E委員	<p>事務局の文章は、特に問題はないですが、ここをどのように動かしていくかが問題かと思っています。政策を私たちが考えていかなければいけないと思っています。私の住んでいる地域は、地域的にとても良いところです。地域と学校とのつながりが深いですが、ここに家庭教育をどうぶつけるかが、子ども会やPTAもそうですが、ぜひ連携しながらやっていかなければならないと思います。</p>
委員長	<p>悩ましいところは、理念として家庭を重視しなければいけないのですが、振興基本計画とすると、行政作用として何をどうするかの話なので、家庭に関して、行政的な作用をどこまで可能か、また良いのか問題になってきて、明らかに虐待やネグレクトの問題は、家庭といっても入り込んでよいのは共通的な社会認識と私は思います。幸せに暮らしている家庭の中で、行政が入り込むかは議論のある所だと思うので、そこはぼやかした書き方にせざるを得ないと思います。他の市でも同じような意見があり、保護者を教育すべきだという意見もあるのですよね。行政が上に立ちすぎるのも問題であると思いますので、このくらいの書き方でいいと思います。</p> <p>もう一方私が思ったのは、3-2②にある、子ども・若者の居場所づくりと支援というのは、先ほどの基盤整備、誰一人取り残さないの項を新しく作れば、</p>

	<p>そこに加えて、この中にシングルペアレントの保護者も多いので、そういう相談事業を一緒に加えた方が整合性が良いのではと。そうすると、3-2①は生涯にわたる学びの推進の一環として、生涯の中には青少年があるから、そちらの方に加えておくという形の方が、まとまりが良いと思いますが、いかがですか。事務局の方で不便はありますか。</p>
事務局	<p>委員長がおっしゃったことは、ごもっともな部分があるかと思いました。新しい項目出しをしたときに、居場所づくりは誰一人取り残さないから見ると、まったく合致していると思いますので、検討させていただいて、答えを後日でよろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>今はいいと思っていますし、よく考えていたら駄目だったということもありますので、そういうふうにしましょう。</p>
B委員	<p>3-5につきまして、賛成の意見です。以前は3つに分かれていたところを2つにして、スポーツをする方と、特に②が良いと思うのですが、中学校の部活動に対して、働き方改革も含めて、受け皿となるスポーツ団体や人材が必要になってくると思いますが、体育協会としても全面的にバックアップさせていただきたいと思っていて、その趣旨に沿う2つの柱は良いと思いました。</p>
委員長	<p>私の方から1点だけ事務局に教えていただきたいのですが、3-3の②が、本文中では本と人と地域を繋ぐと言っていますが、本・人・地域につながる人材育成というのは、語呂的にわからないというか、本と人と地域を繋いでいきましょうというのはわかるので、つなげる、つなぐ、能動的にやるので、関係性は、ボランティアをやってその人たちがつないでいくようにしようという話なので、つながるというより地域の好きな人や本の好きな人を増やしようという話ですが、中身とちょっと違うかなと思いましたが、いかがですか。</p>
事務局	<p>施策の中身としてついてくる事業は、ボランティアの方への支援や、読み聞かせの団体等の読書活動に関わる団体の育成の支援の施策が、具体的なイメージとして挙げられます。本・人・地域につながるというより、つなげるの方が適切な感じもしますので、担当と検討させていただければと思います。</p>
F委員	<p>3-5①ですが、今まで、スポーツの方はスポーツ活動の推進だったのですが、あえて、する・みると両方を含めてスポーツかと思いますが、見ることにス</p>

	<p>ポットを当てるために、あえて、する・みるという動詞が入ったのか教えてください。</p>
事務局	<p>観光的なスポーツの推進が、本市でも進んでおりまして、そういった概念が入ってくると同時に、するスポーツ、みるスポーツもある、②の方ではささえる、意味合いが違いますが、見ることもスポーツの楽しみ方の一つという概念がかなり強く入ってきていますので、今回の生涯スポーツの推進の中に、する・みる、分けてではなくいろいろな関係の仕方があるという意味で、こういう形をとっています。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。これ以外にはありますか。そろそろ時間になりましたので、この辺まででよろしいでしょうか。未消化な部分がありましたら、お願いしたいですが。</p> <p>よろしいでしょうか。今回は理念と施策の体系の方針の柱でした。次回はいただいた意見を反映させて、具体的な中身について検討するという事で、徐々に全体像が上の方から下へ、富士山の頂上から雪がかかっているところまで来たという感じでしょうか。それでは、事務局の方に司会をお返しします。</p>

次回の日程等について

事務局より、今後の会議日程について説明する。次回は、令和3年5月11日（火）富士市教育プラザ1階大会議室にて開催予定。

閉 会